

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月13日

【四半期会計期間】 第67期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社不動テトラ

【英訳名】 Fudo Tetra Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 竹原 有二

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋小網町7番2号

【電話番号】 東京(5644)8500(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 管理本部 企画財務部長 山下 晃

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町7番2号

【電話番号】 東京(5644)8500(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 管理本部 企画財務部長 山下 晃

【縦覧に供する場所】 株式会社不動テトラ 大阪本店
(大阪市中央区南船場二丁目3番2号)

株式会社不動テトラ 北関東支店
(さいたま市大宮区仲町二丁目25番地)

株式会社不動テトラ 千葉支店
(千葉市中央区富士見二丁目3番1号)

株式会社不動テトラ 横浜支店
(横浜市中区真砂町二丁目25番地)

株式会社不動テトラ 中部支店
(名古屋市中区栄五丁目27番14号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 会計期間 | 第66期 第3四半期 連結累計期間 | | 第67期 第3四半期 連結累計期間 | | 第66期 | |
|-------------------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------|-------------------------|
| | 自 至 | 平成23年4月1日 平成23年12月31日 | 自 至 | 平成24年4月1日 平成24年12月31日 | 自 至 | 平成23年4月1日 平成24年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | | 34,281 | | 40,064 | | 51,101 |
| 経常利益又は経常損失 () (百万円) | | 1,431 | | 353 | | 961 |
| 四半期純損失 () 又は当期純利益 (百万円) | | 1,617 | | 450 | | 176 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | | 1,687 | | 418 | | 189 |
| 純資産額 (百万円) | | 11,006 | | 12,464 | | 12,882 |
| 総資産額 (百万円) | | 38,139 | | 43,612 | | 43,262 |
| 1株当たり四半期純損失 () 又は1株当たり当期純利益 (円) | | 9.83 | | 2.74 | | 1.07 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | | - | | - | | - |
| 自己資本比率 (%) | | 28.5 | | 28.3 | | 29.5 |

| 回次 会計期間 | 第66期 第3四半期 連結会計期間 | | 第67期 第3四半期 連結会計期間 | |
|---------------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------------------|---------------------------|
| | 自 至 | 平成23年10月1日 平成23年12月31日 | 自 至 | 平成24年10月1日 平成24年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 又は四半期純損失 () (円) | | 3.29 | | 3.68 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していない。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書提出後、事業等のリスクに記載した内容から変更はない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものである。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要の下支えはあったものの、世界経済の減速の影響から輸出や生産が低迷するなど、停滞した状況が続いた。

建設業界においては、公共投資は震災復興需要により堅調に推移したものの、民間設備投資の回復が見られず、厳しい経営環境が続いた。

当社グループにおいては、中期経営計画の初年度として、課題である震災復興関連事業や全国的な防災・減災事業に取り組んだ結果、受注は堅調に進捗し、当第3四半期連結累計期間の受注高は39,492百万円（前年同四半期比36.2%増）となり、売上高は40,064百万円（前年同四半期比16.9%増）と増収となった。

損益については、売上高の増加に加え販売費及び一般管理費など固定費の削減に努めたことから、営業損失は217百万円（前年同四半期1,102百万円の損失）、経常損失は353百万円（前年同四半期1,431百万円の損失）、四半期純損失は450百万円（前年同四半期1,617百万円の損失）となった。

なお、当社グループの四半期別売上高は、建設業界における一般的な傾向と同様に、第4四半期に完成する工事の割合が大きく、第4四半期の売上高の割合が他の四半期に比べ、著しく高くなるという特性を有している。従って、業績面においても同様の季節的変動特性がある。

セグメントの業績は、次のとおりである。

土木事業

土木事業は、受注高が震災復興工事の増により前年同四半期から大幅に増加したことで、売上高は19,830百万円（前年同四半期比7.3%増）と増収となり、工事採算性の悪化による売上総利益の減少もあり、営業損失は247百万円（前年同四半期137百万円の損失）となった。

地盤改良事業

地盤改良事業は、受注高は前年同四半期とほぼ同水準ながら、売上高は豊富な手持工事の進捗から17,408百万円（前年同四半期比30.1%増）と増収となり、営業損失は59百万円（前年同四半期656百万円の損失）となった。

ブロック事業

ブロック事業は、受注高が震災復興工事の増により前年同四半期から大幅に増加し、売上高が2,824百万円（前年同四半期比18.2%増）と増収となったことに加え、型枠の稼働状況が向上し採算性が改善したことで、営業利益は57百万円（前年同四半期367百万円の損失）となった。

(2)財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、主に未成工事支出金等が増加したことにより前連結会計年度末に比べて350百万円増加し、43,612百万円となった。

負債は、主に支払手形・工事未払金等が増加したことにより前連結会計年度末に比べて769百万円増加し、31,148百万円となった。

純資産は、当第3四半期連結累計期間での四半期純損失の計上もあり、前連結会計年度末に比べて418百万円減少し12,464百万円となった。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(4)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は212百万円である。

(5)経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営戦略の現状と見通しに重要な変更はない。

(6)経営者の問題認識と今後の方針について

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営者の問題認識と今後の方針について重要な変更はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 272,559,104 |
| 計 | 272,559,104 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間 末現在発行数 (株)(平成24年12月 31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成25年2月13日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|---------------------------------|------------------------------------|------------|
| 普通株式 | 182,025,228 | 182,025,228 | 東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数 100株 |
| 計 | 182,025,228 | 182,025,228 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|-------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成24年12月31日 | | 182,025 | | 5,000 | | 2,472 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------------|-----------|----------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 17,540,400 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 164,410,900 | 1,644,109 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 73,928 | | 1単元(100株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 182,025,228 | | |
| 総株主の議決権 | | 1,644,109 | |

(注) 1「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,200株(議決権の数22個)含まれている。
2「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の自己株式36株が含まれている。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社不動テトラ | 東京都中央区日本橋小網 町7番2号 | 17,540,400 | | 17,540,400 | 9.64 |
| 計 | | 17,540,400 | | 17,540,400 | 9.64 |

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第3四半期累計期間における役員の異動はない。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 5,654 | 6,362 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 1, 3 18,356 | 1, 3 17,492 |
| 未成工事支出金等 | 563 | 1,330 |
| 販売用不動産 | 659 | 651 |
| 材料貯蔵品 | 591 | 551 |
| その他 | 2,701 | 1,989 |
| 貸倒引当金 | 63 | 61 |
| 流動資産合計 | 28,462 | 28,313 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 6,646 | 7,190 |
| 無形固定資産 | 254 | 176 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 5,221 | 5,196 |
| その他 | 4,925 | 4,827 |
| 貸倒引当金 | 2,246 | 2,090 |
| 投資その他の資産合計 | 7,900 | 7,933 |
| 固定資産合計 | 14,800 | 15,299 |
| 資産合計 | 43,262 | 43,612 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 15,697 | 16,820 |
| 短期借入金 | 2 4,715 | 2 3,815 |
| 未払法人税等 | 94 | 69 |
| 未成工事受入金等 | 3,222 | 3,207 |
| 引当金 | 315 | 226 |
| その他 | 1,322 | 1,463 |
| 流動負債合計 | 25,366 | 25,601 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,600 | 1,400 |
| 退職給付引当金 | 1,688 | 2,111 |
| その他の引当金 | 2 | 2 |
| その他 | 1,724 | 2,034 |
| 固定負債合計 | 5,014 | 5,548 |
| 負債合計 | 30,379 | 31,148 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 5,000 | 5,000 |
| 資本剰余金 | 14,756 | 14,756 |
| 利益剰余金 | 6,754 | 7,204 |
| 自己株式 | 251 | 251 |
| 株主資本合計 | 12,751 | 12,300 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 28 | 9 |
| 為替換算調整勘定 | 36 | 36 |
| その他の包括利益累計額合計 | 8 | 27 |
| 少数株主持分 | 124 | 136 |
| 純資産合計 | 12,882 | 12,464 |
| 負債純資産合計 | 43,262 | 43,612 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|--------------------|--|--|
| 売上高 | | |
| 完成工事高 | 31,378 | 36,777 |
| 兼業事業売上高 | 2,903 | 3,287 |
| 売上高合計 | 34,281 | 40,064 |
| 売上原価 | | |
| 完成工事原価 | 29,036 | 34,094 |
| 兼業事業売上原価 | 1,678 | 1,695 |
| 売上原価合計 | 30,714 | 35,788 |
| 売上総利益 | | |
| 完成工事総利益 | 2,342 | 2,684 |
| 兼業事業総利益 | 1,225 | 1,592 |
| 売上総利益合計 | 3,567 | 4,275 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,669 | 4,492 |
| 営業損失() | 1,102 | 217 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2 | 2 |
| 受取配当金 | 10 | 10 |
| 特許実施収入 | 16 | 18 |
| 持分法による投資利益 | - | 56 |
| その他 | 30 | 23 |
| 営業外収益合計 | 58 | 108 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 165 | 151 |
| その他 | 222 | 94 |
| 営業外費用合計 | 388 | 245 |
| 経常損失() | 1,431 | 353 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 36 |
| その他 | 7 | 5 |
| 特別利益合計 | 11 | 41 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 5 | 34 |
| 持分変動損失 | 43 | 34 |
| その他 | 32 | 33 |
| 特別損失合計 | 80 | 102 |
| 税金等調整前四半期純損失() | 1,500 | 413 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 63 | 66 |
| 法人税等調整額 | 44 | 42 |
| 法人税等合計 | 107 | 25 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失() | 1,608 | 438 |
| 少数株主利益 | 9 | 12 |
| 四半期純損失() | 1,617 | 450 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|--------------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純損失() | 1,608 | 438 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 64 | 12 |
| 為替換算調整勘定 | 6 | 0 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 10 | 7 |
| その他の包括利益合計 | 80 | 19 |
| 四半期包括利益 | 1,687 | 418 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,696 | 431 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 8 | 12 |

【会計方針の変更等】

| 当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日) |
|--|
| (会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更している。 これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微である。 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|--|-------------------------|-------------------------------|
| | 172百万円 | 352百万円 |

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため一部の取引銀行と貸出コミットメント契約を締結している。

これらの契約に基づく当四半期連結会計期間末における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高等は次のとおりである。

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 4,000百万円 | 4,000百万円 |
| 貸入実行残高 | 1,000 | 300 |
| 差引額 | 3,000 | 3,700 |

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。

なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休業日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれている。

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日) |
|-----------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | 238百万円 | 146百万円 |
| 受取手形裏書譲渡高 | 30 | 75 |

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期に完成する工事の割合が大きいため、第1、第2及び第3四半期と第4四半期の売上高との間に著しい相違があり、第1、第2及び第3四半期と第4四半期の業績に季節的変動がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 632百万円 | 787百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項なし。

2. 基準日が第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項なし。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|-----------------------|---------|------------|------------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 土木事業 | 地盤改良 事業 | ブロック 事業 | 合計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客に対する売上高 | 18,323 | 13,394 | 2,202 | 33,919 | 363 | 34,281 | - | 34,281 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 156 | 9 | 186 | 333 | 217 | 550 | 550 | - |
| 計 | 18,478 | 13,385 | 2,388 | 34,251 | 579 | 34,831 | 550 | 34,281 |
| セグメント損失() | 137 | 656 | 367 | 1,161 | 7 | 1,168 | 66 | 1,102 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 セグメント損失()の調整額66百万円には、セグメント間取引消去30百万円、その他の調整額36百万円が含まれている。

3 セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|-----------------------|---------|------------|------------|--------|-------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 土木事業 | 地盤改良 事業 | ブロック 事業 | 合計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客に対する売上高 | 19,837 | 17,215 | 2,748 | 39,800 | 264 | 40,064 | - | 40,064 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 7 | 193 | 76 | 262 | 197 | 459 | 459 | - |
| 計 | 19,830 | 17,408 | 2,824 | 40,062 | 461 | 40,523 | 459 | 40,064 |
| セグメント利益又は損失() | 247 | 59 | 57 | 249 | 3 | 252 | 36 | 217 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 セグメント利益又は損失()の調整額36百万円には、セグメント間取引消去33百万円、その他の調整額3百万円が含まれている。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日) |
|------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純損失 (円) | 9.83 | 2.74 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純損失 (百万円) | 1,617 | 450 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純損失 (百万円) | 1,617 | 450 |
| 普通株式の期中平均株式数 (千株) | 164,486 | 164,485 |

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

株式会社不動産テトラ
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 若原文安印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 草野和彦印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社不動産テトラの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社不動産テトラ及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。